

カンクンで合意された決定

カンクンでの合意は、先進国・途上国両方の削減目標・行動が同じ枠組みの中に位置づけられ、我が国の目指す「全ての主要国が参加する公平かつ実効性ある枠組み」の基盤となるもの。

先進国の削減目標

- コペンハーゲン合意に基づき提出した削減目標を記載した文書を作成
- 実施に関するMRV(測定・報告・検証)に関するガイドラインを強化
- 京都議定書第二約束期間に関する議論を継続

途上国の削減行動

- コペンハーゲン合意に基づき提出した削減行動を記載した文書を作成
- 支援を求める行動と支援とのマッチングを図る登録簿を設立
- MRV(測定・報告・検証)や国際的な協議及び分析(ICA)を規定

途上国支援

- 新たな基金の設立
- 適応対策を推進するための「カンクン適応枠組み」の設立
- 森林の減少・劣化に起因するCO2の排出削減に合意
- 技術委員会など技術移転メカニズムの構築

途上国のいうバランス

先進国のいうバランス